

## ●武野仲材のアーバンライフ

- 1525年（大永 五年） 武野新五郎（紹鷗）上洛。四条夷堂脇の自居を大黒庵と称す。
- 1526年（大永 六年） 四月 七日 後柏原天皇崩御  
二十九日 後奈良天皇、踐祚。  
九月 十三日 武野新五郎、宗碩・印政らと連歌会「何人百韻」に参加。
- 1527年（大永 七年） 二月 十二日 桂川原合戦。細川高国、足利義晴と共に敗れて京を脱出する。  
二十二日 足利義維、堺上陸。
- 1528年（大永 八年） 三月 九日 武野新五郎、三條西実隆宅を初訪問。  
七月 三好元長、京都守護代になる。
- 1529年（享祿 二年） 八月 十日 三好元長、京で柳本賢治と争い阿波に帰る。
- 1530年（享祿 三年） 六月二十九日 播磨国依藤城攻囲中の柳本賢治、暗殺される。  
七月二十七日 浦上村宗、別所就治が収める諸城を攻め落とし、播磨国を統一する。  
十一月 木澤長政、京防衛の任につく。  
この年、武野新五郎、三條西実隆の推挙で従五位下因幡守に叙任。
- 1531年（享祿 四年） 三月 七日 京を守っていた六郎派の木澤長政、京を放棄。  
六月 四日 大物崩れ、細川高国敗北。この四日後自害。  
末 武野新五郎、山科本願寺方として山科へ出陣  
七月 二日 本願寺が超勝寺方につき、下間頼秀、加賀三ヶ寺討伐軍を催す。  
八月二十日 畠山義堯、飯盛山城の木澤長政を攻撃する。  
二十四日 武野新五郎、山科出陣から帰参し、三條西実隆宅を訪問  
十一月 加賀三ヶ寺全て陥落。
- 1532年（享祿 五年） 一月二十二日 柳本甚次郎、京三条にて三好元長に討たれる。  
二月 十五日 武野新五郎、大徳寺へ参禅。出家して紹鷗一閑居士と号する。  
三月 二日 阿波守護細川持隆、阿波に帰国する。  
五月 十九日 畠山義堯、三好一秀と合流して木澤長政の籠る飯盛山城を攻める。  
六月 十五日 畠山義堯、攻囲中の飯盛山で一向門徒衆に襲撃され、敗死。  
二十日 一向門徒衆、堺顕本寺を襲撃。三好元長を自害に追い込む。  
七月 十七日 門徒衆が暴走して興福寺を焼く。  
二十三日 足利義晴、京の法華衆に反一揆の行動を要請。  
この年、武野紹鷗、大和で白鷺の絵を見て村田珠光の茶味を知る。
- 1532年（天文 元年） 七月二十九日 天文に改元。  
この月、一揆勢大和国高取城に拠る越智勢を攻撃。  
八月 二日 細川六郎、一揆勢を敵と認定。  
四日 木澤長政、細川六郎方につき、浅香道場を焼打ちする。  
八月 七日 柳本信堯及び柳本家臣山村正次、洛中法華宗徒を率い東山で打ち回りを行う。  
十二日 柳本・山村、六角定頼連合軍、大津顕証寺を焼き払う。  
二十四日 山科本願寺陥落。  
二十七日 証如、石山御坊に移る。  
十二月二十四日 摂津国衆の寝返りで富田教行寺他、摂津の本願寺教団寺院が焼き払われる。  
この月、堺で大火。北庄全域、南庄三分の一焼ける。念仏寺被災。
- 1533年（天文 二年） 一月 二日 一揆勢、摂津国大物にて松井宗信と戦闘。  
二月 十日 紀州の本願寺門徒、堺を陸海から襲撃。細川六郎、淡路に落ちる。  
十八日 洛中法華衆、検断を行い、妙顕寺放火犯三名を生害。  
三月 五日 一揆勢、摂津伊丹城を攻囲。  
この月の末、木澤長政・洛中一揆勢、伊丹城の囲みを解く。  
二十六日 武野紹鷗、堺に向かう。  
四月 七日 細川六郎、摂津池田城に入る。  
二十六日 洛中法華宗徒、石山本願寺に向けて出陣。総勢一万、うち騎兵四百騎  
五月 細川高国の弟、八郎（晴国）、本願寺方に協力する。  
この月、法華衆他、六郎方、石山御坊の膝下に迫る。  
六月 十八日 細川八郎（晴国）の上野玄番頭、六郎方の薬師寺国長を討ち取る。  
七月 十二日 武野紹鷗、堺より三條西実隆に消息を送る。
- 1534年（天文 三年） 一月 十三日 武野紹鷗、三條西実隆宅を訪問  
四月二十八日 武野紹鷗、三條西実隆に万句興行連歌の発句を求める。  
五月二十九日 証如、下間頼盛、和睦を破棄。本願寺再び蜂起する。

- 1535年（天文 四年） 十 月 此の月末、三好伊賀守長慶（千熊丸）、木澤長政の仲介で三好政長と和睦。  
三月二十五日 下間頼盛、本願寺を退出。  
四月 九日 蓮淳、石山本願寺に入山。  
四月二十八日 念仏寺再建に紹鷗と田中与四郎（千利休）奉加。（開口神社念仏差帳日記）
- 1536年（天文 五年） 十一月 本願寺と幕府との和議が正式に成立。  
一月 十七日 武野紹鷗、三條西実隆宅を訪問  
三月 三日 松本問答事件が勃発。  
六月 一日 延暦寺三院集会事書提出。洛中法華諸寺の延暦寺末寺化を要求する。  
法華これを拒否。  
七月二十六日 六角氏を仲介にした和睦交渉が破たん。六角氏は延暦寺側につく。  
二十七日 四条口を六角軍が突破。下京一帯焼失。上京法華寺院は自焼して京を脱出。  
三十 日 後奈良天皇、六角軍の洛中狼藉の停止を要請。  
八月二十九日 細川八郎（晴国）、細川晴元の意を受けた三宅国村の裏切りにより自害。  
九月二十四日 細川晴元、上洛。  
閏十月 七日 晴元被官飯尾元運、法華宗の洛中洛外の徘徊と法華寺院再興を禁止する定書を発布。
- 1537年（天文 六年） 七月 延暦寺、洛中法華寺院寺地の接収が進まないことを幕府に抗議。  
幕府はこれを無視。  
十 月 三日 三條西実隆、没。  
この年、武野紹鷗、堺に下る。